

「金沢大学附属図書館 大学図書館未来構想 2022」策定について

2013年11月「金沢大学附属図書館短期アクションプラン」策定

2017年12月「大学図書館未来構想“知と創造の学修館”－常に先進的で、心地よい空間の創出－」策定

再策定の背景

- 大学図書館は、学術情報の主要な生産拠点である大学の活動を支える重要な基盤であり、新たな知を創出するための交流の場であることが強く求められている。
- この役割を支える図書館職員の育成、高度化が求められている。
- 学術情報資源のデジタル化・DX化の進展、ウィズコロナ・アフターコロナに応じた新たな機能追加や対応が早急に求められている。

国立大学図書館協会ビジョン 2025 <知の共有・知の創出・知の媒介>

国立大学図書館は社会の知識基盤として、デジタル・非デジタルを問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを利活用するための環境を利用者に提供することで教育の質保証、研究力やイノベーション力の強化を推進する国立大学の教育研究活動を支え、社会における新しい知の共有、創出の実現に貢献する。

2022～2023

2024～2025

2026～2027

■基本コンセプト1：蔵書・電子媒体等による知の集積・保有，未来への継承

- ※新規購入資料の電子書籍化の促進…積極的に紙書籍から電子書籍へ移行
- ※所蔵貴重資料の電子化の促進…電子化促進方針の策定
- ※「新除籍基準」に基づく除籍の促進…除籍後のスペースをニーズの高い施設に改修

■基本コンセプト2：学修支援の機会・機能の提供，交流による新たな知の創造

- ※オンライン授業・活動にも対応した環境整備…自学自習の場，ラーニングコモンズ等の整備計画の策定
- ※学生の居場所となるスペースの拡充…「ほんわかふえ。」の増床，自然系図書館へのカフェ新設
- ※学修支援の充実…ライブラリー・ラーニング・アドバイザーによる学修相談の高度化，レファレンスサービスの充実

■基本コンセプト3：社会と大学との新たな関係の構築

- ※地域の図書館・博物館との連携の強化，所蔵貴重資料の一般公開の促進

■基本コンセプト4：これからのを支える人材の育成，多様な環境整備

- ※教員・学生等の多様な人材との協働，図書館職員の能力の向上

■基本コンセプト5：公共的な施設としての基本的機能の改善・新技術の導入

- ※スマート図書館化，館内のバリアフリー化

※具体的なアクションプラン（重点項目等の抜粋）

基本コンセプト

